

2025 第 71 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 7 年 10 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部
〒290-0011

市原市能満 1261-5 三田方

発行者 三田 博

編集者 斉藤 和紀

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)

時の鐘 (川越情景)

水彩画 小菅 一弘

JAC120 周年 アルバータ峰遠征報告

平野 直子



日本山岳会 120 周年記念事業の一環として、カナダ遠征隊のメンバーとして参加してきましたので、以下に報告します。

冒頭に、このような機会を与えてくださった隊長の松原氏、日本山岳会の皆様、親身になってお話をいただいた橋本会長、メンバーとして迎えてくださった遠征隊員並びにそのご家族様に感謝致します。文字通り非力な副隊長でしたが、みなさまのお陰でとても密度の濃い時を過ごしました。

アルバータ峰 (アルバータ山) 3,619m は、カナディアンロッキー第六位の高峰で、標高 10 位以内の山として、最後まで未踏で残されていた難しい山である。現在でも年に 1 パーティーがチャレンジするかどうかという難峰は、今からちょうど 100 年前の 7 月 21 日に榎有恒ら日本人 6 名とスイス人 3 名によって初登頂された。

今回アルバータ登頂 100 周年記念イベントが、地元ジャスパーで盛大に開催された。これに橋本 JAC 会長や、在カルガリー日本国総領事はじめ、ゆかりのある日本人が多数招かれ、我々も末席に連なる事が出来た。この記念イベントと、その前にジャスパーイエローヘッド博物館で特別展示されていたアルバータ初登頂にまつわる記録をじっくり見られた事で、いかにカナダの方々が、アルバータ峰初登頂を大切に思っているか、いかにそ

のチャレンジが困難であったか、そしてそれにまつわる数々のエピソードを登山出発前に知る事ができたのは後に、より大きな感動を与えてくれた。カナダとジャスパーの方々に感謝である。

アルバータ登山と銀のピッケルに関する情報をもっと知りたい方は、学習院大学山岳部 (山桜会) ホームページを訪れていただきたい。

【期間】 2025 年 7 月 19 日～7 月 31 日

【場所】 カナダ アルバータ州

【メンバー】 隊長 松原尚之、副隊長 平野直子、 登攀リーダー 谷剛士、大野雅樹、草野駿希、高橋湧太、中田康太郎、中畑岳登、宮地聡、山上耀一郎、安食昌義 (報道)

《2 ページへ続く》

〔 目次 〕

・ JAC120 周年 アルバータ峰遠征報告	平野 直子	p 1~4
・ グレート・ヒマラヤ・トラバース バルトロ氷河踏査報告	榛葉 千穂	p 4~5
・ 野反湖から登る白砂山	三田 博	p 6
・ たいまつ行列と伯耆大山	末吉 千穂美	p 6~7
・ Base 草刈り後は 3 支部 + α 組で宴会	松田 宏也	p 7
・ 雄国沼・安達太良山 福島の花めぐり	齋藤 米造	p 7~8
・ 晴香園の子供たちと八王子城跡へ	香高 真奈美	p 8
・ なつぞらのハヶ岳	山中 孝郎	p 8~9
・ 奥鬼怒・湯沢噴泉塔アドベンチャールートに行く	三品 京子	p 9
・ あの日の	福里 清信	p 10
・ こんにちは	横江 紗也香	p 11
・ ウォーキングクラブ報告	宇津木 仁典	p 11~14
・ 支部山行予定		p 14~15
・ お知らせ	《事務局から》	p 16

【アルバータ遠征の行程】



《7月19日》 晴れ 成田からカルガリー経由登山ベースとなるキャンモアの町へ

《20日》 雨 後発隊合流 先発隊はインドアジムでクライミング

《21日》 曇りのち雪 ジャスパーに移動して記念式典参加、カナダ山岳会メンバーと昼食後移動。翌日からの準備

《22日》 晴れ時々曇り 登山初日、氷河の雪解け川の 800m 渡渉が第一核心。幸い気温が低く氷河が融けない為、水嵩は膝までと低かったので助かった。その後も雪の積もった斜面を進む。道は無いが、地元でクライミングガイドをされている谷リーダーのおかげでルートファインディングは問題なかった。8時間かけて漸く小屋に到着。この時期 22 時過ぎまで明るい為、外で入山記念トンテキの夕食。

《23日》 曇りのち雨雪 前日に確認した天気予報によると 24 日が期間中一番晴れる確率が高く、25 日から 27 日頃までは悪いとの予報。入山早々であるが、予定を早め、本日からアタックとする。A 隊（谷、

草野、高橋、中畑、宮地）はアタック装備で先発、張れるところまでフィックスロープ工作。B 隊（松原、平野、大野、中田、山上）はサポートでアタックキャンプ道具一式を持ち上げ、2920m 地点に A B C 設営。A B C までのアプローチも岩がルースで急斜面なため激悪。絶対に落ちてはいけない地点が多数あるが、全員が熟練者のため、ノーロープで進む。アタックキャンプ地点も斜度がきつい。かろうじて 2 張りの 2 人用テント地を、みんなで岩を積み平坦に整備した。天気予報に反して晴れ間は無い。

《24日》 雨雪のち雷雨 A 隊アタック日。予想に反して天気は悪い、が、前日決めた予定通りアタック隊は午前 3 時にキャンプを出発した。この日は 2 時間おきにベースと定時交信を行った。

交信によると、ルートであるジャパニーズクローワールは、コンディションが良いとドライで落石に気を付けながらの登攀になるが、今回は雪が詰まっており、アイゼンピッケルの、完全に岩雪登攀になっているとの事、時間がとてもかかる。

午後になって漸く全員が稜線に抜けた。ここからも雪の付いた細い稜線が続く。途中懸垂下降や登り返しをしながら 16 時 20 分、谷と草野が頂上に到着。残りのメンバーは時間切れで引き返した。

夕方から全員で懸垂下降を開始する。この頃から雪が酷くなるが、落石に注意しながら下り続けた。全員疲労が募り、更に雷も頻発する中、ついに 23 時ビバークを決意。クローワール残り 1 ピッチの場所だった。



全員下着までびしょ濡れの中2, 2, 1名でツェルトを被って、お座りビバーク。このコンディションで大きな体調不良者が出なかったのは、全員が強靱な体力と気力の持ち主であったからこそだった。



ベースの小屋では時折雷が落ちるピシッ、ガラガラという音でこちらにも心配な一夜を過ごしていた。

《25日》 雪のちガス 朝6時の定時交信で、アタック隊が4時半から行動開始した事を知る。

同時に事故の知らせが舞い込む。中畑がロープ回収の際、斜めに振られて数メートル滑落。セルフビレイで止まるも足首を捻り歩行困難となった。直ちにサポート隊（松原、平野、大野、山上）は食糧その他救援物資を持ってABCに向かう。一方小屋に残った安食と中田はレスキュー要請と準備、各隊の連絡係を行った。

最悪骨折も懸念された中畑は、谷のテーピング治療のおかげでサポートされながらゆっくり歩く事が出来るようになった。事故現場では、長吊り救助（ホイスト救助）は可能と思われたが、他のメンバーの疲労度、気温、天候、事故地点に長く留まる危険等を勘案し、中畑をサポートしながらヘリランディング可能なABCまで降りる判断をしたそうである。二次事故に気を付けながら、アタック隊はジャパニーズルートを抜け、ABC上部2ピッチ地点まで戻ってきた。一方その頃サポート隊は、前日4時間かかったルートを2時間でABCに到着。そのまま松原と大野は中畑達の迎えに、平野、山上はABCで下山したメンバーのケア準備をした。

程なくアタックメンバーとサポートが合流後、無事ABCに到着。みんなをテントに入れ暖かい飲み物と食べ物を取ってもらう。

一方iPhoneのSOS通信を発信したベースの安食からの連絡を受け、着々と救助体制が整っていった。参考までに救助の流れを書くと、安食 SOS 通信→Apple Relay Center（衛星通信中継センター）→Parks Canada Jasper Dispatch→山岳救助隊となる。安食と中継センターとのやり取りの後、約一時間後にはジャスパーの山岳警察隊の準備が整った。（ちなみに今回の遠征では、ネパール等で重宝したガーミン社のインリーチは持参しなかった。現在の北米ではインリーチに代わりiPhoneの衛星通信が一般通話範囲外での主な通信手段になっているという。今回の天気予報についても、谷夫人をはじめ下界の人々と毎日連絡を取り合い、最新の山岳気象情報を入手することが出来た。）

山は上部はガス時々雪の天候が続いているが、とりあえずこちらに向かってくれる。

我々がベースに到着して一時間ほど経った頃、ヘリコプターの音がするも、視界が悪く接近が困難である模様。何回か近づこうとするが、諦めてガスを抜けた下方のカールの底で天候待ちの態勢に入った。このまま天気が回復しなければ、救助に数日を要する可能性がある。ABCに要救の中畑、谷と大野を残して他のメンバーはBCへの帰還を開始する。雪の中、約2時間かけて疲れたメンバーが漸くBCに到着する頃、ワンチャン、ガスを突いてヘリがランディングに成功！3人をピックアップした。

カナダのヘリ救助が日本と違うのは、とにかく融通が効く事だ。現場から要救本人だけでなく、帯同者もベースまで送ってくれた。我々が2時間かけた行程が乗降含めわずか10分で完了。谷と大野を降ろし、通訳担当の安食を乗せてヘリは下界へ去って行った。

残りのメンバーが勢ぞろいしたところで、大量の水を浄水してくれていた中田がアタックメンバーに熱いラーメンを振る舞う。全員にほっとした表情と笑顔が戻った。長い二日間が終わろうとしていた。

《26日》 曇り時々小雨、上部は雪 アタックと過酷なビバークで疲れたメンバーを気遣い、この日は休養。ジャスパーから通信が入り、中畑は捻挫との事。大事に至らないで良かった。

《27日》 晴れ 漸く青空が見渡せる中、撤収。一週間お世話になった小屋をきれいにし、やっと全貌が見えたアルバータ峰をバックに記念撮影。長いガレ場を下り、行きには雪の下に埋もれていたお花畑を抜けて、午後3時に下山。やっと人心地がつく。夕方痛々しいギブスを装着した中畑とも合流。何度目かのお疲れ様会を開く。

《28日》 曇りのち晴れ この日はメンバーそれぞれが思い思いに過ごす。私はメンバー3人で近郊のフリークライミングエリアに行き、久々のクライミングを楽しんだ。

《29日》 晴れ 明日は帰国という前日。この日もフリークライミング班、マルチピッチ班、ハイキング班に分かれて行動。私はメンバー3人と近郊のヤマナスカ山ハイク、カナディアンロッキー東端の名峰だ。カナダにはスクランブリングという登山の形式がある。北アルプスの登山道から鎖やハシゴを取り払ったようなコースで、一般ハイキング以上クライミング以下という位置づけだ。ヤマナスカもこの範疇に入る。ちょっと怖い岩場を慎重に登ると素晴らしい絶景が待っていた。夕食は今回のメンバー全員が谷家に集まり夕食会。カナダ滞在最後の晩餐を楽しんだ。

《30日》 晴れ カルガリーで別件で北米滞在していた橋本会長と合流。お昼をご馳走になったのち、無事機上の人に。

《31日》 晴れ 成田空港で解散。各人が日本中に

散らばり、それぞれの日常に戻っていった。

【感想】 今回の登山のキャッチフレーズは「慎さんすげー！」の一言に集約される。

もちろんアルバータ初登頂は慎有恒隊長だけではなく、日本人6名、スイス人3名を含むのだが。

今回実際に遠征に参加してみて、アルバータ峰を目にするまでの行程、壁を目前にしてみてもこの悪壁にルートを見出した観察眼、脆い岩を9人で登頂したそのタ

クティクス、登りだけでは無く、全員無事に下山する安全管理能力全てに感服した。当時の装備、交通手段、日本人への偏見も強かったであろう中、よくぞこの登山を成し遂げたと思う。百年前の偉業に改めて脱帽し、登山文化を育んでくれた事に感謝すると共に、これからも自分の山を楽しみつつ、少しでも未来への礎を築ければと思った。

グレート・ヒマラヤ・トラバース バルトロ氷河踏査報告

榛葉 千穂

【期間】 2025年6月15日～7月22日

【場所】 ヒマラヤ

【メンバー】 松田宏也、榛葉千穂、阿部君枝、他支部9名

こんにちは。2025年1月に千葉支部に入会しました、榛葉(しんは)と申します。6月～7月に行われた日本山岳会120周年記念事業のグレート・ヒマラヤ・トラバースに参加してきましたので報告をさせていただきます。

千葉支部からは、松田元支部長、阿部君枝さん(1月入会)、榛葉の3名が参加しました。私達は一番短いバルトロ氷河のみを往復するコースです。

《6/15》羽田からパキスタンのイスラマバードへ。3日ほど滞在。

《6/18》飛行機で1時間のスカルドゥーへ移動、3日ほどホテルに滞在し準備&高度順応。

《6/21》車でアスコレーキャンプ場まで入り、そこからは22泊23日のテント泊山行開始。長いテント泊に期待と不安が入り交じる。日中は35度という暑さの中、初日20km歩いたのはしんどかった。この辺りから松田さんの体調に徐々に異変が生じる。元々、下痢気味だったようだが、加えて重度の熱中症とコロナに罹患、6/25キャンプ地パイユで出発地のスカルドゥーへ緊急ヘリ搬送となった。たまたま遅れてパキスタン入りした重廣隊長にその後の手配を託し、私達はそのまま登山を続行する。

《6/26》いよいよバルトロ氷河の始まり。氷河というと、日本の大雪渓のようなイメージでいたが、実際は小高い丘のようなアップダウンの多いところを乗り越えていく感じ。結構疲れる。だが、足元は氷河だけあって風が吹くと涼しい。そしてこの辺りから山の景色が素晴らしいものとなってくる。マッシュャブル



ム、ムスターグ・タワー、スキムブルムなど7,000m級の山々がこれでもかというくらい見え始める。

《6/29》コンコルディア到着。K2が目の前にドーンと見えてカッコいい!!さすがK2。威風堂々の姿。素晴らしい!

《6/30》K2のBCに向かう。K2の登り口には、無数の慰霊碑があり、平出和也さん、中島健郎さんのものもあった(涙) 日本から用意してきた線香を焚いて弔う。

《7/4》再度、コンコルディアに戻った後、ガッシャーブルムBCへ。高度が5000mを超えたのでポーター達が頭痛を訴え始めた。当初はガッシャーブルムBCに2泊する予定だったが、1泊で切り上げてコンコルディアへ戻る。遅れてバルトロ氷河入りした重廣隊長と合流。あとは来た道をそのまま戻った。

《7/17》イスラマバー

ドへ戻り、退院した松田さんとホテルで再会。だいぶ痩せてお辛そう。なんとか一緒に日本に帰りたいという一心で体をマッサージしたり、足のリハビリをおこなったりし、7/21帰国の途についた。成田空港では三田支部長、松田さんの奥様がお迎えに来てくださり、松田さんはそこから車で東京の病院へ向かわれた。

今回、初めての海外登山でわからないことも多く、不安と迷いがありましたが、8000m級の山々を間近に見ることができ、素晴らしい体験ができました。一緒にいただいたメンバーにも恵まれ、貴重な経験をさせていただきましたことに改めて感謝申し上げます。



野反湖から登る白砂山

三田 博



山行日/天候：5月30日（金）～31日（土）曇り・雨

参加者：三田博（L）、三品京子、宮崎美智代（3名）

タイム：（30日）白砂山登山口6：10→6：55 地蔵峠→8：50 堂岩山→9：35 獺師の頭→10：30 白砂山→11：40 獺師の頭
→12：15 堂岩山→13：50 地蔵峠→登山口14：40

ぐんま県境トレイルの白砂山（しらすなやま・2139m）に野反湖キャンプ場のバンガローに前泊して登った。白砂山は200名山だが、登山者が少なく静寂の山ともいわれている。

雨ならおとなしくシラネアオイを見て野反湖周辺散策だけにすつもりだったが、天気はなんとか持ちそうなのでスタートする。登山口の臨時登山相談所の人から1名入山者がいると聞いたが、踏み跡が途中から消えていたので八間山へ向かったのだろうか。15分ほど歩いてハンノキ沢を渡り、最初はブナとダケカンバの森を歩く。やがてヤマザクラとシャクナゲが咲く森の道を登る。堂岩山手前の急登はまだ雪が残っていた。堂岩山からは稜線歩きなのだが、ガスが切れた時だけ越後方面の山々が見えた。天気が良ければ素晴らしい景色が広が



ったはずだが、残念。アップダウンがあり頂上までがやたら長い。結局4時間半近くで山頂に到着したのもつかの間、とうとう雨が降り出してきた。写真を撮り、食事もそこそこに下山開始する。

途中、テン泊装備の5、6人の若者パーティーとすれ違う。県境トレイル縦走のようだ。途中、人に会ったのは結局このグループだけ。雨は次第に激しくなり、慌てて合羽を着こむ。下りの雪渓では、念のためチェーンスパイクを装着。雨に震えながら登山口に着いたのは14：40。久しぶりに歩きごたえのある山だった。



たいまつ行列と伯耆大山

末吉 千穂美



山行日/天候：6月6日（金）～10日（火）（晴れ）

参加者：CL 三品京子、SL 小川和敏、三田芳江、宮崎美智代、成田知彦、末吉千穂美（5名）

《6月6日～7日》バスタ新宿19：40→米子駅6：50

タイム：大山駐車場8：35→夏山登山口9：05→山の神さん10：10→6合目避難小屋10：35
→大山（弥山）11：45→大神山神社14：25→大山駐車場15：00

夜の高速バスでの寝不足もなんのその、大山の姿を見ると心躍る。石畳の神聖な雰囲気のある参道を歩いてから登山スタートです。なかなかの急登が続きましたがカッコウ、ハルゼミの声、可憐なイワカガミを見て心がやすらぐ。8合目からは整備された木道。山頂にて景色を楽しみながら昼食。登山口から持ってきた石を納めて（頂上保護の為の活動）下山開始。西日本最大級の面積を誇るという緑の美しいブナ林を歩く。川床からは迫力のある大山の北壁に圧倒されました。

宿にて汗を流し、夕食を済ませ今回のメインイベントたいまつ行列に参加。ゆらめく炎の行列が暗闇に浮き上がりなんと幻想的。厳かな神事に参加できて感動しました。

《6月8日》

タイム：大山駐車場8：10→行者登山口8：40
→中宝珠越10：00→三鉢峰11：30

→上宝珠越12：40→中宝珠越13：15

→行者登山口14：30→豪門湯院14：55

きょうは大山を眺めるコースです。前日とは違い足場が悪い。歩き始めた直後に漬物石ほどの石が音を響かせながら転がり落ちてくるのを目の当たりにしてビビる。ズルズルした道、木の根をよじ登りくぐり、ロープのかかった岩を登り、まるでアスレチックのようで、気を張りましたが楽しいコースでした。ただ、纏わりついてくる虫には閉口しました。

西側は伯耆富士と呼ばれるのに対し、崩落の激しく荒々しい場所もあり、見る角度により表情が全く違う魅力的な山でした。

《6月9日》松江城→出雲大社→日御碕灯台

→日御碕神社

《6月10日》境港にて水木しげるロードを観光

→米子空港→羽田空港



Base 草刈り後は3支部+α組で宴会

松田 宏也



山行日/天候：6月7日～8日 宿泊11名

参加者：松田宏也、三田博、山中孝郎、齋藤米造、阿部君枝、榛葉千穂さんのご主人、伊藤（松田さん友人）、群馬支部1名、福島支部3名

先月からぐずぐずとした空模様が続いていましたが、幸いに谷間の晴れ間に恵まれた。今日は草刈りシーズンの幕開け初日である。10時にBase集合でさっそく草刈り作業開始。伸び始めた庭の雑草を手分けして刈り、マテバシイ、クチナシの剪定もおこなった。

今日の泊まりは福島支部3名、群馬支部1名、千葉支部4名、+α組3名の11名である。福島組の3時Base入りに備え、草刈りを終わらせ買

出しも済ませ、準備万端の臨戦態勢をとった。福島組は時間通りにBase到着。さっそく歓迎の宴の開始となった。

今夜のシェフはCMSCA加盟の剣稜登高会（船橋）S氏である。痛めたギックリ腰もなんのその、手料理の酒のつまみが食卓に広がった。美味しい料理と福島、群馬が持参した銘酒に全員酩酊し、気持ちよく爆睡となった。



雄国沼・安達太良山 福島の山 花めぐり

齋藤 米造



山行日：6月27日（金）/雨・28日（土）/晴れ

参加者：L三田博、三品京子、宮崎美智代、齋藤米造（4名）

タイム：27日 雄子沢登山口 9:40→11:40 雄国沼湿原→13:20 雄国山→15:00 ラピスパ裏磐梯

27日4:30市原市役所発。晴の予報に反して天候悪化。急遽、安達太良山の予定を変更して雄国沼を目指す。雄国沼湿原は「泥炭地形形成植物の発生する地域」として天然記念物となっている。泥炭地は炭素貯蔵能力に優れ、気候変動対策に果たす役割が大きく、保全

すべき環境だ。

雄子沢登山口から2時間、木道を進むと濃い霧の中に黄色のベールが浮かび上がり、ニッコウキスゲが見えてきた。尾瀬沼を凌ぐ日本一の大群落だ。ヒオウギアヤメ、レンゲツツジ、コバイケイソウが真

っ黄色のキャンバスに鮮やかなアクセントをちりばめている。濃霧が晴れたらどんな光景が広がっていることだろうと夢想する。

帰路は雄国パノラマ探勝路。雄国山 1271m を越えてラピスパ裏磐梯へ戻るルートは、利用者少なく荒れたコースだった。

28 日、日程変更の作戦が大正解。快晴の安達太良山は雄大な火口風景と初夏の高山植物で我々の目を楽しませてくれた。



昨日は荒天で運休だったロープウエーを利用して、山頂 1699m まで 1 時間少々。真夏の陽気で汗が噴き出す。

地元で乳首山と称される特徴的な山頂は岩頭で、梯子を攀じる。昼食後、牛の背と呼ばれる主稜を進むと、西側に月面を思わせる荒涼とした沼ノ平爆裂火口（立入禁止）が迫る。矢筈森のピークを経由して、くろがね小屋に至る道にはアカモノ、サラサドウダン、ウラジロヨウラク等の高山植物が見頃で目を奪われた。下山途中、山菜大好きなメンバーが「アッ、こしあぶら」と、20 回は絶叫？して目を輝かせた。天ぷらにしたら絶品だそうで、一度食べてみたくなった。

くろがね小屋は建て替えのため 2028 年 11 月まで休業中。（私事です）1980 年 12 月、小屋の 300m 先で硫化水素の充満した雪穴に落ち、亡くなった後輩に黙祷して下山した。

晴香園の子供たちと八王子城跡へ

香高 真奈美



山行日／天候：6 月 28 日（土）晴れ

参加者：L 三木雄三、香高真奈美、能美勝博、高橋琢子、渡邊悦郎 児童 3 名、職員 2 名

タイム：大川戸登山口 9:05→三登谷山 9:40→雨巻山 10:55→展望塔 11:30→雨巻山 11:34→峠 12:17

→御嶽山 12:36→足尾山 12:55→タイタニック岩 13:16→大川戸登山口 14:04

行き先はお城の跡と聞いて園のみんなも支部会員も「なあんだお散歩か」と思っていたようだ。しかしここは約 400 年前の山城。深い森の中の急階段、各所に曲輪の痕跡、本丸まではより細く曲がりくねった坂道を登り、児童たちもそれなりに戦国時代の空間を感じてくれたと思う。時々三木先生からの自然学のクイズに元気に答えていた。

ひらけた所では、西武ドームから都心の高層ビルまではっきり見えて皆感激！ 9 才、10 才、13 才のクラブ員たちの感想は「本丸までの急な道も疲れたけど行けて良かった」「こんど夏休みにはアノ鍾乳洞にまた行きたーい」でした。



なつぞらのハヶ岳

山中 孝郎



山行日／天候：6 月 28 日（土）～6 月 29 日（日）晴れ

参加者：L 今井貴朗、末吉千穂美、成田知彦、山中孝郎（4 名）

タイム：6/28（土）美濃戸高原ロッジ 11:20 発→赤岳鉱泉 14:35（小屋泊）

6/29（日）赤岳鉱泉 6:20→硫黄岳 7:30→横岳 8:40→赤岳山荘 11:00→赤岳 12:00

文三郎経由で行者小屋 13:15→美濃戸高原ロッジ 16:20

今井さん企画の‘なつぞらの八ヶ岳’のタイトル通りの天候にも恵まれた山行でした。



赤岳鉱泉には何度も行っていますが鉱泉小屋に泊まったのは初めてでした。6人程度の個室で我々4人でゆっくりとワイワイがやがやと泊まる事ができました。

山中は前夜に出発して美濃戸高原ロッジPには早朝に到着したにも関わらず満車に近い状態でした。若い登山者が多くてさすがに人気の山だと思いました。

今井さん達は11時近くに到着、駐車場の空きスペースはなく、山中の駐車場の隣にぎりにぎりに詰めてどうにか2台駐車。高原ロッジから赤岳鉱泉へはのんびりと自然を楽しみながら歩く。

途中でJAC九州支部の安藤さん3人のグループとすれ違い成田さんがやり取りをする。小同心に登攀した帰りらしい。安藤さんは昨年にアマダブラムに千葉支部と一緒にいった方だとの事。なんと車で九州から来たらしい。

赤岳鉱泉はやはりそれなりに賑わっていた。小屋の広場で偶然二人の女性山仲間と遭遇した。明日小同心に登

攀するとの事でビールを差入れする。

やはり八ヶ岳は人気の山だと思いました。

夕飯はハンバーグであった。夕飯後は飲み会ミーティングで盛り上がる。



翌日、赤岳鉱泉を6時過ぎに出発し硫黄岳へ2時間ほどの登り。森林限界を過ぎた頃、横岳、赤岳、阿弥陀岳の八ヶ岳らしい岩稜の山並みが現れた。

なだらかな爆裂火口の硫黄岳から横岳へは結構

な登り、横岳の岩稜を注意しながら赤岳天望荘に到着。数年前に来た時より長く感じた。

昔は石室だった天望荘から眺める赤岳は圧倒される山容である。30分程の急登は登りごたえであった。

赤岳山頂に小屋があり売店もあったが記憶にない。成田さんがコーラを購入して南峰で登頂写真。下山は文三郎尾根を行き小屋に下る。頑張っ中岳、阿弥陀岳にも行きたいところであったが次回の楽しみにする。行者小屋で地藏尾根を下った今井さんと合流して美濃戸高原ロッジに柳沢沿いに下山した。帰路の高速道路は予想以上に渋滞していた。

奥鬼怒・湯沢噴泉塔アドベンチャールートに行く

三品 京子



山行日/天候：7月6日（日）/晴れ

参加者：L 三田博、山中孝郎、三品京子、成田知彦（4名）

タイム：駐車場7：00→第3砂防ダム8：50→広河原の湯9：30→噴泉塔10：30→広河原の湯11：40→駐車場13：40

前日、千葉を早めに出発し鬼怒川温泉と川治温泉の間にある龍王峡を散策し宿泊はバンガロー泊なので途中のスーパーで食料品を調達、土呂部のキャンプ場へ向かう。



早々にバーベキューの準備、火起こしをしながらビールで乾杯し酒盛りスタート、いつもながら有るだけ食べて飲んでいつの間にか就寝。

翌朝は早々に湯沢噴泉塔へと出発、平家平温泉の手前の駐車場到着。入口は藪に覆われかき分け進むと橋の手前には湯沢歩道通行止の表示、元々は登山道が整備されていた道との事、崩壊箇所が所々

にあり難易度の高いとの情報に足元に注意しながらスタートする。倒木を跨いだりぐったり、腐りかけの梯子を登ったりの2時間、第3砂防ダムに到着。ここで沢装備を装着、まずは川をジャブジャブと渡るが水が冷たくない。徒渉を飽きるほど繰り返していると硫黄の匂いが



漂よってくる広河原の湯に到着。温泉が流れ込んでいるので冷たくないのかと納得する。

コンクリートの温泉基がありその湧き出している湯をためるブルーシートもあり露天風呂を楽しむらしい。予定ではここで温泉たまごを作るはずだったが買い忘れて残念、先に進むと目的地まで200mの朽ちた道標の先に淵がある。リーダーは難なくへっつて余裕の様子、その後を

皆もなんとかクリアして温泉塔に到着した。小さな温泉塔でしたが山肌からは温泉が噴き出し沢の詰めとしては不思議な光景でした。地熱と日差しの暑さにたっぷりと汗をかき早々に来た道に戻り、すぐ近くの平家平温泉で疲れをとり帰路に着いた。このルートはリーダーのルートファインディングがなければたどり着けない秘境、お世話になりました。

あ の 日 の 山

一 天気急変で撤退した利尻山

福里 清信



2021年に登山を始めてから約3年半後の2024年6月、ソロでの初めての登山で利尻富士に挑戦しました。利尻、礼文は20代の初めにやはりひとりで来たことがありましたので、約45年ぶりの懐かしい再来島となりました。

6月10日、稚内から利尻島へ向かうフェリーから見える標高1721mの利尻富士の勇姿は見事なものでした。翌11日、快晴の空が白みかける頃、民宿の方に登山口まで送って頂き、午前4時半に登山を開始しました。宿の人に、利尻島にはヒグマが生息していないので安心して登山を楽しんで下さいと言われ、気持ちにも余裕を持ちながら手付かずの北の樹林帯を楽しむことができました。登山道の脇にはリシリリンドウ、リシリヒナゲシ、リシリハタザオなど多くの利尻島の固有種の花々が咲き、登山者を迎えてくれます。5時15分、四号目の野鳥の森5時50分、五号目6時16分、六号目の第一見晴らし台に順調に到着しました。ここまで来ると、一気に視界が開けて島の地形が一望できます。登り始めてから約2時間後、胸突き八丁と呼ばれる七号目に到着、7時18分に標高約1300mの第二見晴らし台に到着しました。

ここまでは天気にも恵まれて順調に登ってきましたが、標高約1500mの八号目あたりから、気温が下がり、雨が降り出し、風もかなり強くなって一気に天気が崩れてきました。用意した雨具を着けて、強風と雨の中を途中の雪渓を抜けて山頂を目指して登り始めました。8時26分、「ここからが正念場」

と刻まれた九号目に道標に到着しました。しばらく必死になって歩きましたが、雨と強風の中での歩行は危険を感じるほどで、途中では登山者が座り込んで様子を見ている様子も何え、中には引き返す人も出てきました。地図上は山頂までの距離はそれほど長くない、このまま行けば行けなくもないと思ったのですが、途中で引き返す人を見てここ引き返した方がいいとの判断で9時10分に私も山頂を諦めて途中で引き返しました。

下山途中の避難小屋で休憩していると、そのまま進んだ人たちが戻ってきました。話を聞くと山頂は私が引き返したところから15分くらいの距離だったとのことで、途中で引き返したことに残念な思いもいましたが「勇気ある撤退」と自分に言い聞かせて再度の挑戦を心に誓いました。グループでの登山であれば、恐らく迷うことなく山頂まで行けただろうと思いましたが、ソロでの登山での判断は難しいと改めて勉強になりました。

翌日、沓形港から見た利尻富士もまたとても素晴らしいもので、再度の来島を改めて心に誓いました。



♪ こんにちは ♪

横江 紗也香



昨秋に日本山岳会千葉支部に入会しました、横江紗也香です。

山の多い地域で生まれ育ちましたが、これまで登山の経験はほとんどなく、社会人になってから山ガールブームに乗っかって、友達に誘われて数回行ったことがある程度でした。コロナ禍ではじめたロードバイクに熱中しており、落車して肘を骨折したのをきっかけに、足腰だけでも鍛えておこうと山歩きを始めました。そして、たまたま見つけた TOZAN Fes. 2024 (第59回全日本登山大会千葉大会) で千葉支部がガイドを務められている登山ツアーに参加したところ、松田さん・三田さんより会友へお誘いいただきました。

それでも山岳会は私には敷居が高いかも、と少し尻込みしていたのですが、支部だよりを読んでみるとなんと、元同僚で友人の小栗山さんが山小屋でカレーをおいしそうに食べ



ている写真が出てきたのです！「とてもいい勉強になるよ」という言葉に背中を押され、入会を決めました。

去年は、支部山行で北アルプス、南アルプスに初めて行きました。地図を見たり、雑誌を読んだりネットで調べたりして、準備段階から山を楽しむことができました。また、高い山に登ると遠くの山が見渡せて、今度はその山に登ってみたいなど登山沼にはまりつつあります。さらには、沢登りやクライミング、雪山でのテント泊など、知らなかった世界広がってとても楽しく充実しています。山行に参加するたびに、ありがたい叱咤激励をいただき、新しい発見と反省がありますので、ベテランの皆さんとご一緒させていただくことが大変勉強になっています。今は本部のユースクラブで、9月の北鎌尾根登頂に向けた講習に参加しています。登攀の技術に加えて、パーティでの役割分担も勉強中です。

最近、仕事や他の趣味が忙しく、山へは月1度行けるかどうか、と少ない頻度なのですが、これからも長く登山を続けていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

ウォーキングクラブ報告

宇津木 仁典



● 国会見学と昔と変わらない大人の街の赤坂地区ウォーキング

N029 3月23日(日)晴れ

参加者：L 宇津木仁典、塩塚生二、平出正美、羽藤美代子、新井好夫、梶田義弘、梶田天兵、小林ユキ子、長谷川博、中場義則、斉藤和紀、黒住清美、坂上光恵、竹園清孝、鎌谷繁、國宗文、渡部孝雄、今井恵子、丸知子、小野勤子(会員の友人)、

今回のウォーキング実施地区(赤坂)は、永田町に隣接する政治家御用達の料亭が並ぶ花街と栄え、また複合施設赤坂サカス、TBS ができてからは大人の街として発展してきた地域、街のまわりには多くの坂がのび、昔を偲ばせる古社寺を巡回する。

メトロ国会議事堂前に9:30に16名が集まり、まずは、国会議事堂の周回路を周回後に国会内に入り、参観係の説明を受けながら国会内の赤じゅうたん踏み込み、衆議院議場・天皇陛下お休み所等を約60分要して見学した。国会正面(表庭)に出て「集合写真」撮影後は、赤坂地区ウォーキングはスタートした。

主な立ち寄り地は、日枝神社➡赤坂 TBS➡氷川坂➡氷川神社➡赤坂のなかで傾斜がきつい三分坂➡勝海舟邸跡高橋是清翁記念公園➡豊川稲荷➡ホテルニューオータニ日本庭園➡清水谷公園➡JR 四ツ谷駅(解散地)に到着した。歩数計は約15.5km、20,500歩、消費kcal550を示していた。

関係者に「無事に終了して解散した」旨を報告したところ、「初夏のような暑さの中ウォーキングは楽しめましたか？お疲れさま」と返信があった。さて皆々は、楽しめたのかな？自問自答した……答えは、楽しみは全く無かった！だろう。世話人の後を東西南北の坂道の長距離をどちらの方角に向かっているのか？黙々と真面目に相当な距離を歩かされた！疲れたあー、途中離脱もしたかったなあー。推察した。

しかし、今朝、参加者から『皆様、病気の9割は、歩くことで治る』の本がユーチューブ聞くことができます。時間がありませんでしたら聞くか、本を読んでください。」

また、ある人からは、「昨日は大人の社会科学見学-国会議事堂や近代政治の勉強もしてとても充実したウォーキングでした。激動の時代を経て今の日本があり、赤坂が政治の要の場所と実感しました。警備もすごかったですね。」と世話人宛に力添えのメール配信(言葉)があった。

翌月(4月)ウォーキングは、「大多喜城と春の大多喜町を巡るウォーキング」を計画したところ、夷隅鉄道が災害により一部不通区間が発生したので、ウォーキング地区を「自然と歴史を感じる安食『安食駅~下総松崎駅』夕食に「鰻」食べられるかな?に変更した。後日に同好会員にお知らせします。



● 自然と歴史を感じる「房総の村」周辺ウォーキング

N030 4月20日(日) 曇り

参加者 L 宇津木仁典、塩塚生二、平出正美、小林ユキ子、三品京子、長谷川博、斉藤和紀、黒住清美、坂上光恵、竹園清孝、宇津木仁典、

JR 下総松崎駅前 10:10 スタートして、主な立ち寄り地は坂田ヶ池総合公園⇒岩屋古墳⇒旧学習院初等科正堂⇒昼食⇒県立房総の村(旧平野家住宅→商家の町並み→武家屋敷→県立風土記の丘資料館)⇒古墳広場⇒龍角寺であった。竜各寺台4丁目バス停留所から JR 成田駅行きバスに乗りして、JR 成田駅 15:40 ゴールして解散した。歩行距離は 10.5km であった。このウォーキングには「気性がはっきりしていて気分屋でない」「知恵に優れている」「行動力があり活発」「実行力がある」(3M?)1人が初参加した。

ウォーキング最初の立ち寄り地「坂田ヶ池総合公園」は、隣接する県立房総の村と一体となる、豊かな自然と水に親しめる広大な憩いの場であった。この公園から階段を僅かに登った丘では、目前に古墳がみえ掲示には築造時期は6世紀半と推定説明され、埴輪や動物・家形埴輪等が周囲には備えられていた。これからのコースは歴史を感じる、房総の農家や商家、武家屋敷等が再現地「房総の村」内のウォーキングである。なかでも県立風土記が丘資料館には、周辺に広がる国指定史跡「龍角寺古墳群・岩屋古墳」があり、このガイダンス施設に入館した。

ウォーキング最終立ち寄り地「龍角寺」に向かう歩行距離は、やや長く「さーて、真面目にウォーキングしよう」独り言に、初参加者から「今までコースは不真面目か？」耳にした。龍角寺では、説明ボランティアから1,300年以上の歴史があること。建立時のエピソードや龍伝説、薬師如座(国重要文化財)像境内の三重塔礎石(国史跡)等について、ボランティアから詳細にわたり熱心な説明があった。バスに乗りして成田駅に到着、いよいよ鰻を肴に反省会である。

成田商店街道では57チーム出演の成田太鼓祭りのフィナーレを飾る、千鼓万礼(せんこばんれい)パレード中で演奏と共ににぎやかに華やかに練り歩いていた。反省会では、先日kさんから「月1のウォーキング実施は捨てたものではない!参加してみても……」初参加した動機です。心に残る言葉である。



● 富津岬からの東京湾ビュー感動ウォーキング

N031 実施月日(天候):5月24日 曇り

参加者: L 宇津木仁典、塩生生二、長谷川博、岩尾富士夫、新井好夫、斉藤和紀
竹園清孝、小林ユキ子、清宮政広、吉野聡、黒住清美(11名)

JR 青堀駅前 10:10 スタート後は国道 16 号線を僅かに西進して、広大な富津市民ふれあい公園内に至り、テニスコートサ⇒サッカー場⇒野球場⇒陸上競技場⇒多目的広場⇒富津埋め立て記念館(見学)⇒水産問屋直営店食堂では、富津は「あなご」が名物で「はかりめ」とも呼ばれている。「あなご重」や「大あなご天井」をビール付きでたっぷり食して満足したようだった。

昼食後は、富津漁港⇒温水プール⇒富津公園バス停留所を経由して、富津岬最先端にある「五葉松」をモチーフにした「明治百年記念展望塔」に到着した。展望塔からは 360 度パノラマビュー。あいにくの曇天だが、東京湾第一・二海堡やふれあい公園、遠くには霞んだ房総丘陵が一望できた。頂上からの眺望は山頂と同じく感動した。空気の澄んだ日には富士山もくっきり見ることができるといふ。

夕刻からは降雨予報があったので往路コースを急ぎ進んで、バスに乗り込んで JR 木更津駅前に到着して解散した。

顧みて「ふれあい公園」は初ワークであるが、県内及び都内にも「このうえ無い」広大で素晴らしい公園である知見を得た。資料には富津沖埋立事業の実施に伴い、臨海部における公害を防止・緩和するために既存内陸部との境界に帯状に 6 ゾーン設けられた公園……。記されていた。

反省会後に帰宅したところ、「実に面白く楽しいウォーキングでした。26000 歩 16km 歩き喋りも良くしました。ふれあい公園は気に入りました……」メール着信があった。また、ある参加者から翌日に、今、富津で潮狩りをしています。富津ウォーキングは楽しかったです。富津岬を再訪してハマヒルガオ群落地をみたいです。メール着信があった。なお、環境に感心がある山岳会員からは、展望塔建設にあたり貴重なハマヒルガオ群落が全滅してしまった！怒りを覚える……。この言葉が錯綜し複雑な想いがあった。展望塔から少し離れた地に雑草の中で寂しく少々咲いていたハマヒルガオを見つけた。群落の名残かな



支部山行の予定

- 山行の心得 — リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。
「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入ってきて下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

リーダーの連絡先	
松田 宏也	印刷版を参照してください
三木 雄三	
三田 博	
三田 芳江	
平野 直子	
小川 和敏	
三品 京子	



日本山岳会千葉支部

今井 貴朗	印刷版を参照してください
宮崎 美智代	
東 蒼生	
小栗山 大介	
成田 知彦	
香高真奈美	
宇津木 仁典	

《難度》

- W ウォーキング
A 整備され歩行 2～3 時間
B 歩行 5 時間前後
C 歩行 7 時間前後、一部岩あり体力要
D 強い体力、岩技術要
E 高い適応能力要、危険度大



(難度は JAC 日本 300 名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。)

● 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。また山岳保険には必ず加入してきてください。

- ①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号
※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行は定員を設けています。また、技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることもあります。

各山行形態に見合った山岳保険に加入していない場合は、当該山行には参加できません。

個人山行も計画書提出を 送信先 ; cib@jac.or.jp

山行カレンダー (10 月～2 月)

日 程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
10 月 17 日(金)～18 日	鳥海山	C	秋川ヒュッテ (避難小屋泊)	三田	締め切り
10 月 18 日(土)	都内台東区	W	鳶屋重三郎のゆかりの地巡り	梶田	10 月 11 日(土)
10 月 25 日(土)	鳩ノ巣溪谷バットレス	A	溪谷の地形を学ぶ	三木	10 月 18 日(土)
10 月 26 日(日)～27 日	全国支部懇談会		主催：関西支部		締め切り
10 月 26 日(日)	鳴虫山	A	鳴虫山から憾満ヶ淵へ	宮崎	10 月 10 日(金)
11 月 1 日(土)～2 日	尾瀬・至仏山	C	鳩待峠から	三田	9 月 30 日(火)
11 月 9 日(日)～10 日	西上州・稲倉山と立岩	C	「西上州のドロマテ」だそうです。民宿泊	三田	10 月 10 日(金)
11 月 15 日(土)～16 日	ロープワーク講習会		CMSCA 主催、登り返し手順他、Base 泊	三田	11 月 1 日(土)
11 月 22 日 (土)	群馬・嵩山	B	奇岩が連なる山 ※鷹ノ巣山から変更	小川	11 月 15 日(土)
11 月 23 日 (日)	世田谷と目黒	W	豪徳寺と旧前田藩侯爵邸散策	塩塚	11 月 16 日(日)
11 月 29 日 (土)	陣馬山	B	陣馬山から小仏峠そして相模湖へ	三品	11 月 8 日 (土)
12 月 6 日(土)	年次晩餐会		支部にて一括申し込み		事務局長へ
12 月 7 日(日)	晩餐会記念山行		高尾山		事務局長へ
12 月 13 日(土)	大楠山	A	JR 衣笠駅 から	東	12 月 6 日(土)
12 月 13(土)～14 日	九十九里浜	W	日本最長の砂浜を歩く	宇津木	12 月 7 日(日)
12 月 20 日(土)～21 日	忘年山行	B	詳細 15 ページ	三品	事務局長へ
1 月 4 日(日)	伊予ヶ岳 (新年山行)	B	マイナーな東尾根ルート、Base 前泊可	三田	12 月 20 日(土)

日本山岳会千葉支部

日 程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
1 月 11 日(日)	大山 (丹沢)	B	大山阿夫利神社を参拝	三品	12 月 25 日(木)
1 月 24 日(土)	都電荒川沿線	W	都電荒川線で名所旧跡を歩く	岩尾	1 月 14 日(水)
1 月 30 日(金)～31 日	伊豆山稜線歩道	B	富士山を眺めながら船原峠から達磨山へ	三田	12 月 6 日(土)
2 月 7 日(土)	三浦富士・武山	B	三浦半島の低山をのんびりと	今井	1 月 31 日 (土)
2 月 15 日(日)～16 日	谷川岳	C	土合山の家泊、ロープウェイ登山	三田	1 月 10 日(土)
2 月 28 日(土)	埼玉・丸山	B	奥武蔵随一のパノラマ 芦ヶ久保駅から	小川	2 月 20 日(金)

※ ウォーキング実施月日及び実施地区は、リーダーが決定のうえ「山行カレンダー」に掲載していましたが、7 月以降は掲載しません。7 月以降のウォーキングは、ウォーキング会員が毎月(1 回)の実施計画を策定のうえ、ウォーキング会員に事前にお知らせたうえ、実施することになりました。
なお、ウォーキング会員を御希望の方は、宇津木宛にメールをお願いします。

※ 晴香園山行は年 4 回を予定しております。山行日程表に掲載されていない場合でも都度支部メール等でお知らせ致します。担当 香高真奈美

お知らせ 《事務局から》

●支部年会費の納入について

令和 7 年度年会費の振込みをお願い致します。支部の運営にとって大切な原資です。未納者には、支部だよりの配布、並びにメール他での連絡を停止します。

以下がゆうちょ銀行の送金口座です。

記号番号で送金の場合：00270-8-105649

店名で送金の場合：ゆうちょ銀行 029 店 105649

加入者名 日本山岳会千葉支部

●「九十九谷をたどるみち」通行止め解除されました

千葉県の間東ふれあいの道で、以前より崩壊が進み通行禁止になっていた「九十九谷をたどるみち」ですが、房総の山復興プロジェクトでの整備作業で通行ができるようになりました。通行止めだったのは石射太郎から芹集落の間で、今年春に倒木除去と登山道復旧工事をおこない、7 月に県の通行許可がありました。

●忘年山行のお知らせ

千葉支部の 2025 年忘年山行と忘年会をおこないます。忘年会参加だけでも OK です。ぜひご参加ください。

日にち： 2025 年 12 月 20 日(土)～21 日(日)

宿泊：南房総市岩井海岸 民宿「治郎吉」

会費：1 万円程度

山行：20 日・鹿野山古道、21 日・磯根崎 (海のハイキング)

申し込み締め切り 11 月 10 日 (定員ありますので早めに) 事務局・三品まで

●2026 年千葉支部カレンダーの申し込み

支部会員の吉田ご夫妻の御厚意で、恒例の千葉支部南極カレンダーを作成・寄贈していただきます。希望者に配布しますので、メールでお申し込みください。事務局・三品まで

●役員会報告

○6 月報告 6 月 17 日 (火) リモート (三田、三品、小川、甘楽、平野、斉藤和、三田芳、渡部、香高、宇津木、成田)

◇山行・行事報告 5/24 富津岬 W、5/30～5/31 上信越・白砂山、6/6～6/10 伯耆大山、6/7～6/8 房総 Base 草刈

- ◇山行・行事予定 裏磐梯・雄国沼、八王子城跡（晴香園）、神奈川県藤沢市地区 W、八ヶ岳・赤岳、奥鬼怒・湯沢噴泉塔など
- ◇報告・検討事項 支部連絡会議報告、支部だより 70 号、袖ヶ浦市内中学校・野外活動支援予定、晴香園山行予定、千葉支部 20 周年海外山行について 6/16～7/22 カラコルム（グレート・ヒマラヤ・トラバース遠征）、7/19～7/31 カナダ・アルバータ山（JAC ユースクラブ遠征）

○7 月報告 7 月 8 日（火）リモート（三田、三品、甘楽、平野、斉藤和、平出、香高、三田芳、今井、宇津木、小川、成田）

- ◇山行・行事報告 6/27～6/28 裏磐梯・雄国沼、6/28 八王子城跡（晴香園）、6/28 江ノ島 W、6/28～6/29 八ヶ岳・赤岳、7/5～7/6 奥鬼怒・湯沢噴泉塔
- ◇山行・行事予定 苗場山、房総 Base 草刈②、前白根山と白根隠山、8/24～8/26 北アルプス・立山、金時山、袖ヶ浦市内中学校・野外活動支援など
- ◇報告・検討事項 袖ヶ浦市内の中学校、野外活動支援予定、20 周年記念事業、全国支部懇談会、晴香園予定、セルフレスキューについて

○8 月報告 役員会休会

○9 月報告 9 月 9 日（火）リモート（三田、三品、平野、斉藤和、平出、香高、三田芳、今井、宇津木、小川、成田、東、榛葉（オブザーバー））

- ◇山行・行事報告 7/27～7/28 苗場山、8/23 ブルーベリー狩り（晴香園）、8/24～8/25 北アルプス・立山、9/5～9/7 火打・妙高
- ◇山行・行事予定 袖ヶ浦市内中学校・野外活動支援 5 校、金時山、佐倉市 W、古賀志山、伊藤新道、鳥海山など
- ◇報告・検討事項 カラコルム（グレート・ヒマラヤ・トラバース遠征）報告、カナダ・アルバータ山（JAC ユースクラブ遠征隊）報告、袖ヶ浦市内中学校野外活動支援について、忘年山行について、支部だより 71 号について

●会員・会友の動向

- 《入会》 なし
- 《退会》 なし

編集後記：今年 7 月をもって長年にわたり SAC 教室の会場であったヨシキスポーツさんの YY ルームが閉鎖となりました。今後、新たな会場を探し SAC 教室を行うこととなります。支部会員の方でレンタルスペース等の情報をお持ちの方は情報の提供をお願い致します。

提供先：SAC 幹事長 小川和敏

